

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(公財)東京都予防医学協会
予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1-2
保健会館 電話 03-3269-1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行



— 今月の主な紙面 —

- (1面) ● 東京都「いのち支える」シンポジウム 若者の自殺対策を考える
- 「思春期の危機に迫る」テーマに 第31回日本思春期学会総会・学術集会

- (2・3面 (見開き))
- 連載 予防医学事業のこれまでとこれから 第3回
- 話題 冬場に流行! ノロウイルス食中毒
- 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 働くシニア! 応援シリーズ 第5回:保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム

- (4面) ● 特定保健指導の効果をどうみるか 第245回ヘルスケア研修会
- ピンクリボン in 東京2012が開催
- 連載 予防医学相談室より 第4回
- 近未来の働き方を求めて 第50回健康管理研究協議会記念総会

東京都「いのち支える」シンポジウム 若者の自殺対策を考える

東京都では社会全体で自殺対策を推進するため、2007年度から9月と3月の年2回を自殺対策強化月間と定め、自殺防止キャンペーンを展開している。その一環として行われた「東京都『いのち支える』シンポジウム 若者の自殺対策を考える」には、約330人が参加し、約5万人がインターネットでの中継を視聴。この問題への市民の関心の高さがうかがえた。

シンポジウムでは、まず、NPO法人自殺対策支援センターライフリンクの担当者から「若者の自殺対策の実情―若者の感じる生きづらさとは」と題して現状を報告した。

自殺の実態を踏まえ

実効性のある支援の継続を

年間3万人を超える自殺に歯止めをかけようと、自殺対策に関する国の指針「自殺総合対策大綱」の全体的な見直しが行われ、今年8月、閣議決定された。新しい大綱では副題に「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」という強いメッセージが掲げられ、国をあげて実践的な対策を進める方針が示されている。こうした中、9月10日からの自殺予防週間にはさまざまな啓発活動が展開され、東京都庁都民ホールでは、深刻化する若者の自殺対策を考えるシンポジウム(主催・東京都)が開かれた。

1998年以降、日本では毎年約3万人を超える人が自ら命を絶つている。98年の自殺死亡率を100として、年齢階級ごとの推移をみると、ほとんどの世代が減少している中で、20代、30代の若者世代は増加傾向にある。また、各年代の死因を順位別にみると、10代後半から30代では自殺が死因の第1位となっている。

「こうした深刻な実態の背景には、経済面、生活面、心理面のさまざまな要因が関連していると考えられる」と報告を行った担当者は指摘する。

その上で、若者たちが他

9月1日、2日の両日、第31回日本思春期学会総会・学術集会(会長・家坂清子ぐん)が長野県・軽井沢町で開催された。学術集会の基調講演「友だち地獄―『空気を読む』世代のサイバル」では、現代の子どもの生きづらさと人間関係の特徴、その社会的背景などについて、筑波大学の土井隆義教授が、社会学を専門とする立場から最新の知見を交えて詳細に解説した。

土井教授は、まず、昨今の思春期の子どもたちが強いストレスを抱えていること、その最大の要因は友だち関係にあることを示した。

「思春期の危機に迫る」テーマに

第31回日本思春期学会総会・学術集会

必要」「ひとたびどこかに相談すれば多様な支援が受けられるような、支援者同士の連携が求められる」など、若者の自殺の実態とその対策、支援の在り方などをめぐってさまざまな意見が交わされた。

シンポジウムを主催した東京都の高野祐子福祉保健局自殺総合対策担当課長は、「地域によって異なる自殺の実態を踏まえて、関係機関や民間団体とも連携しながら、実効性のある支援を継続していきたい」と語る。

立への不安は高まる。子どもたちの人間関係の軸足を増やし、『タコ足化』することが大切」と説いた。

一方、教育講演では、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター長の松本俊彦副センター長が、「自傷行為」をテーマに講演した。

松本副センター長は「自傷行為は、援助者がしばしば誤解しているような『人の気を引くためのアピール的行動』とは本質的に異なり、むしろ一人きりで苦痛を解決しようとする『生き延びるための対処法』である」と解説。その上で「思春期の若者の約1割が自傷行為を経験している」と訴え、繰り返されるうちにエスカレートし、死をたくり寄せてしまう自傷行為への正しい理解に基づいた適切な援助の在り方を明快に示した。



個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江崎良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(公財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

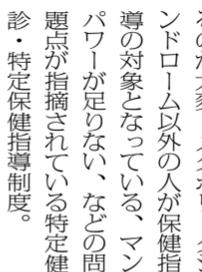
特定保健指導の効果はどうみるか

第245回ヘルスケア研修会

評価のための疫学的手法とデータ活用の有用性を講演



「特定保健指導の効果について聞かれたら『効果はあったが、受けた人が少なく、全体へのインパクトも少なかった』と答える」



「特定保健指導の効果をいかに高く評価するか、評価のミニマムポイントと第2期計画策定に向けた疫学・統計学」と題して講演した。

ピンクリボン in 東京 2012 が開催

わが国の乳がん罹患率は年々増加し、今や女性の約16人に1人がかかると言われている。また、高齢者が多い他のがんとは異なり、30代から50代までの働く世代に多いことが特徴である。



乳がんは、早期発見、早期治療により、90%以上の人が治ると言われている。このため、早期発見につながる乳がん検診をきちんと受診することが重要である。

しかし、東京都の乳がん検診受診率は、32.8%(2010年)と低迷が続いていて、国が目標とする50%とはかなりの開きがある。

こつした中、10月1日、東京・新宿区で「ピンクリボン in 東京 2012」(主催・東京都福祉保健局)が開催された。

主催者を代表して挨拶した東京都福祉保健局の川澄俊文局長は、「東京都では、乳がんの早期発見、早期治療の大切さを伝えるブースが並び、ステージではトークショーなども行われた。

会場には、マンモグラフィ(MMG)検診や自己触診の大切さを伝えるブースが並び、ステージではトークショーなども行われた。

4 予防医学 相談室より

侮れない脂肪肝

「脂肪肝」とは、肝臓の細胞内に中性脂肪などが蓄積している状態で、腹部超音波検査などで指摘されることがあります。

原因には、過度の飲酒や栄養過多、肥満、糖尿病、脂肪肝ウイルスもC型肝炎ウイルスも関与していない。

かつては、過度の飲酒が原因の脂肪肝が肝硬変へと進行すると考えられ、その

明かされてきました。非B非C型肝炎ウイルスも関与していない。

近未来の働き方を求めて

第50回健康管理研究協議会 記念総会



図表の具体例をあげて、最低限のポイントを示した。その上で、「自施設の取り組みの効果を確認したい人と健保組合の行く末など今後の展望を示したい人」とでは、扱う統計が違ってくる。まず、何のために評価したいのか、しっかりと自分の心に問うて欲しい。その次に、誰を対象に、何を指標として、どう評価するかを考案することが重要だ」と強調した。

健康管理研究協議会の第50回記念総会が9月8日、東京・大田区で、「近未来の働き方を求めて」をテーマに開催された。

別講演「マネジメントとリーダーシップ」サッカーからのメッセージや、国際労働機関労働者保護局の井谷徹前局長による基調講演「職場の多様性に対応し得る産業保健活動」、シンポジウム「これからの日本をどう生き抜くかー健康と新しい働き方のヒントを探る」(写真)などが行われた。

お知らせ

第247回ヘルスケア研修会
働く女性の健康管理

1月30日(水) 14:16時
東京・千代田区「星陵会館」
第247回ヘルスケア研修会が1月30日(水) 14時から16時まで、東京・千代田区の「星陵会館」で開催される。

「働く女性の健康管理」月経と妊娠のトラブル対策」をテーマに、聖路加国際病院の百枝幹雄副院長が講演する。司会は健康管理コンサルタントセンターの弓掛つね子幹事。

従来のCAVI・ABIに加え、末梢動脈疾患(PAD)診断機能を強化!



- TBI専用ユニット(ポンプ内蔵)で高性能を実現
新たに開発した足趾血圧ユニットTPU-15(ポンプ内蔵)により、脈波計測感度をあげることによってTBI計測精度を大幅に上げました。
*足趾血圧ユニット(TPU-15)を付属しないVS-1500AE/ANもあります。
- 負荷ABI機能の追加
フクダ電子は独自のABI負荷装置VSL-100(オプション)を開発しました。更に負荷ABIの解析ソフトウェアを充実。



血圧脈波検査装置(CAVI/ABI)
VaSeraTM VS-1500Aシリーズ
医療機器承認番号: 22100BZX00762000

FUKUDA DENSHI 〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) http://www.fukuda.co.jp/ お客様窓口 ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00 ●医療機器専門メーカー **フクダ電子株式会社**